

JA全農 WEEKLY

4-5面

JA全農 令和元年度事業報告の概要 (経営企画部)

6-7面

みかんの生産・流通・消費の懸け橋に
(広報・調査部)



みかんへの思いを熱く語る清原優太さん(6-7面)



岐阜県本部の直営店「匠味」のシェフが料理レシピをYouTubeで配信(8面)



JA全農 令和元年度事業報告の概要(4-5面)



- 2 スマートフォンを用いた土壌分析ツールを開発
(営農・技術センター肥料研究室)
- 香港ECサイト「JA shop HK」
日本産食材サポーター店認定(輸出対策部)

- 3 事業承継ブック部会版を発行
(耕種総合対策部)
- お弁当レシピコンテスト 入賞作品を発表(広報・調査部)

- 8 キャンプ向け「Camp Rice for Solo Camper」を発売(岡山県本部)
- 直営店「匠味」シェフの料理レシピをYouTubeで配信(岐阜県本部)
- JAタウンショップ紹介
JAなんすん(静岡県)

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちら



Web
限定

第48回山梨県肉畜鶏卵共進会
(肉牛の部)を開催(山梨県本部)

全農の食の応援団「虹のコンキスタドル」
のYouTube番組「全農 presents届け!
ファンファーム」第3話放送!(広報・調査部)

News!



スマートフォンを用いた土壌分析ツールを開発

7月から発売スタート

営農・技術センター肥料研究室

販売を始めた土壌分析ツール一式



「スマートフォンみどりくん[®]」は、土壌懸濁液に「みどりくん[®]」を浸して発色させ、「Pico」で測色すると、測定結果がスマートフォン専用アプリで数値化される。今までは発色具合を目視で判断して分析値を判定していましたが、「Pico」を使用することで微妙な色の違いを瞬時に数値化することができます。分析項目は硝酸態窒素、pH、水溶性リン酸、水溶性加里の4種類となっています。

営農・技術センター肥料研究室は、農大式簡易土壌分析試験紙「みどりくん[®]」と試験紙の色を1秒足らずでスキャンする簡易測色ツール「Pico（ピコ）」を組み合わせ、誰でも手軽に安定した分析値が得られる土壌分析ツール「スマートフォンみどりくん[®]」を開発、7月から発売を始めました。

お問い合わせ先はこちら
【メール】
zz_zk_sumamidori@zennoh.or.jp

営農・技術センター肥料研究室では、今後も新たなツールの運用を通じて、生産者の健康な土づくりを支援していきます。

News!



香港ECサイト「JA shop HK」 日本産食材サポーター店認定

日本産農畜産物の輸出拡大を促進

輸出対策部



日本産食材サポーター店の認定証



日本産食材サポーター店に認定された全農インターナショナル香港(マーティ ECエグゼクティブ=左とアンソニー青果部長)

全農は海外拠点の現地マーケティングを通じて、日本産農畜産物の輸出拡大を一層強化していきます。

また、日本産の卵や米、輸出専用の「日本酒Zー」なども販売しています。独自ECサイトは消費者と直接コミュニケーションが取れる非常に良い機会であり、いろいろなたテストマーケティングの場としても活用しています。

全農インターナショナル香港(株)は、独自ECサイトを活用して日本産農産物の販売活動を行っています。このほど、農林水産省の「日本産食材サポーター店」に認定されました。このサポーター店制度は、日本産農林水産物・食品の海外需要を拡大し輸出促進を図るため、日本産食材を積極的に使用する海外の飲食店や小売店が認定されています。香港では、特に果物の人気が高く、メロン、桃、スイカなどの販売が好調です。

事業承継ブック部会版を発行

部会組織の承継を支援

耕種総合対策部

【事業承継ブック部会版の概要】

○構成：「知識編」「準備編」「実践編」の三部構成

■知識編

- ・WORK1：統計から知ろう
- ・WORK2：地域・品目の歴史から、部会の歴史を知ろう

■準備編

- ・WORK3：気持ちを伝えよう
- ・WORK4：子世代が集まって話をしよう
- ・WORK5：アンケート調査をしよう

■実践編

- ・STEP1：部会の【人】について確認・協議しよう
- ・STEP2：部会の【農地・施設（個人・共同）】について確認・協議しよう
- ・STEP3：部会の【生産・販売】について確認・協議しよう
- ・STEP4：部会の【規約】について確認・協議しよう
- ・STEP5：各世帯で部会の今後について話をしよう
- ・STEP6：部会10年プランを立てよう

事業承継ブック部会版「事業承継ブック～産地全体の話し合いのきっかけに～」の概要



耕種総合対策部は、部会における事業承継支援ツールとして、事業承継ブック部会版「事業承継ブック～産地全体の話し合いのきっかけに～」を発行しました。

世代交代が進む農業界での重要課題である「事業承継」の支援に向け、平成29年1月に発行した「事業承継

ブック親子版をはじめ、「事業承継ブック集落営農版」「ハッピーリタイアブック」を発行し、全国の「TAC」を通じて事業承継の支援に取り組みを進めていく

「産地の維持のため部会版の事業承継ブックを作成してほしい」といった声が多数寄せられ、これらの声に応えるため部会版を発行しました。

この冊子は、県域組織を通じて全国のJAや関係機関などに配布し、TACの訪問活動などを通じて支援を進めていきます。

事業承継ブック
はこちらから



お弁当レシピコンテスト 入賞作品を発表

全国の小学生から248作品の応募

広報・調査部

国産の牛肉と牛乳の消費拡大と、小学生の自主性や料理体験を後押しすることを目的として開催した「国産の牛肉と牛乳を使ったお弁当レシピコンテスト」（小学生対象、5月1日～6月20日開催）の入賞作品が決まりました。

コンテストには全国の小学生から248作品の応募がありました。力作ぞろいで、レシピや写真から思いを込めて一生懸命作ったことが伝わってきました。審査は、工夫、作りやすさ、見た目、味を基準に行いました。最優秀賞に選ばれたのは、

田上誉莉さん（熊本県・小学生から248作品の応募）の「あつまれわたしの好きな物⑤弁当」。牛肉は「牛乳は「たまご焼き」と「かぼちゃサラダ」に使用しています。その他、優秀賞2作品、特別賞7作品が選ばれました。入賞者へは副賞として、和牛と牛乳・乳製品セットなどを贈呈します。また、最優秀賞と優秀賞の作品は、全農親子料理教室のメニューに採用します。



最優秀賞に輝いた「あつまれわたしの好きな物⑤弁当」

主催：CPM生活者マーケティング株式会社
協賛：全国農業協同組合連合会

入賞した10作品
はこちらから
ご覧ください



JA全農 令和元年度事業報告の概要

【経営企画部】

事業概況

令和元年度は、自己改革の加速化に加え、3か年計画(令和元年度～3年度)の5つの最重点事業施策(①生産基盤の確立、②食のトップブランドとしての地位の確立、③元気な地域社会づくりへの支援、④海外戦略の構築、⑤JAへの支援強化)の実践を、本会グループが一丸となり、すすめました。

令和元年度事業報告の動画はこちら



生産基盤の確立

- パートナー企業と連携した農作業受委託や、県域JA等と連携した広域の協議会設立などによる労働力支援の実践
- 新規就農者研修事業やJA等との実践型研修農場の運営による新規就農者の育成
- 営農管理・農作業の効率化に向けた、農業ICT等の革新的な技術や低コスト栽培に資する資材の導入・普及
- 生産者の出荷作業軽減等に対応した米・青果物の広域集出荷施設の整備、および農薬等の農家戸配送業務の受託などによる物流合理化
- 営農コスト削減に向けた、肥料の銘柄集約や段ボールの規格集約、および農薬担い手直送規格、共同購入トラクター、配合飼料等の供給拡大



新規就農者を育成する「チャレンジャーファーム広島」



キュウリの大規模多収栽培実証施設「ゆめファーム全農SAGAI」

食のトップブランドとしての地位の確立

- 「全農グループMD部会」等を通じた、コンビニエンスストアや量販店、食品メーカー等との新たな商品開発
- 本会グループ会社との共同営業や販売体制の整備
- 加工・業務用ニーズに対応した米・青果物の契約栽培や作付提案等を通じた農産物の取扱拡大
- 実需者への直接販売の拡大に向けた、米の事前契約の拡充や青果物のパッケージ・冷蔵機能を備えた施設整備・活用
- オンラインショップ「JAタウン」等のeコマース事業の強化や「みのりみのる」店舗など中食・外食事業の展開



カボチャの契約栽培農場



JAタウンのサイト

元気な地域社会づくりへの支援

- 地域のくらし支援・活性化に向けた、JA生活店舗の業態転換や直売所を併設した大型Aコープ店舗の出店
- 農家の空き家等を活用した農泊のマニュアル作成やポータルサイトの開設など、農泊事業モデルの開発
- ホームエネルギー事業における組合員家庭用電力供給の開始
- 石油供給体制維持に向けた地域マスタープランにもとづくセルフSSの整備
- LPガスの保安確保に向けたガスキャッチの普及拡大



JA農産物直売所が一体となった「JAファーマーズ野田宿店」



農泊で収穫体験をする親子

海外戦略の構築

- 重点7か国を中心とする輸出拡大に向けた、輸出用産地や業務用販路の拡充
- 香港でのeコマース自社サイトの開設や、台湾での日本産農畜産物直売所の設置など消費者接近型事業の展開
- 輸出拡大が見込まれる中国での営業拠点の設置決定
- 香港における現地ニーズに応じた鶏卵の輸出拡大や、中東向け国産和牛の供給体制の確立
- 出資や長期契約などによる、肥料原料の安定調達、および米国・ブラジル・カナダでの飼料穀物の安定確保



台湾に設置した日本産農畜産物直売所「じゃじゃ」

JAへの支援強化

- 専任部署の新設と、「経済事業強化メニュー」にもとづくJA経済事業収支改善への支援
- 他連等と連携した「見える化プログラム」の導入および活用による改善提案
- 県域JAが取り組む事業改革プロジェクト等への参画、および改善計画の策定・実践に向けた現場での支援と所得増大の実証
- 「農家手取り最大化モデル55JA」の取組成果を活用した農家手取り最大化実践メニューの水平展開と所得増大の実証
- 産地インフラの整備・再編支援に向けた共同利用施設の収支改善の提案



JA支援全国TV会議の様子

経営概況

青果物および畜産物相場の低下や燃料価格の低迷などにより、取扱高は計画4兆6676億円に対して実績4兆4768億円と、計画比96%となりました。
 経常利益は、受取配当金の増加などにより、その他経常損益が計画を上回り、計画78億7000万円に対して実績74億600万円となりました。

取扱高

(単位: 億円、%)

科目	元年度計画	元年度実績	30年度実績	計画比	前年比
供給	13,252	12,631	13,428	95	94
販売	29,025	27,801	28,159	96	99
供給・販売計	42,276	40,432	41,587	96	97
原料供給	4,400	4,336	4,338	99	100
合計	46,676	44,768	45,925	96	97
(事業別内訳)					
米穀農産事業	7,203	7,094	6,932	98	102
園芸事業	12,059	10,987	11,288	91	97
営農・生産資材事業	8,077	7,870	8,054	97	98
畜産事業	10,665	10,364	10,462	97	99
生活関連事業	8,672	8,453	9,190	97	92
合計	46,676	44,768	45,925	96	97

経営収支

(単位: 百万円)

科目	元年度計画	元年度実績	30年度実績	計画差	前年差
事業総利益	91,227	88,635	91,272	△2,592	△2,636
(うち粗収益・原料収益)	84,564	82,249	84,150	△2,315	△1,901
事業管理費	91,731	93,126	94,493	1,394	△1,367
事業利益	△504	△4,491	△3,221	△3,987	△1,269
その他経常損益	8,374	11,897	11,376	3,522	521
経常利益	7,870	7,406	8,154	△464	△748
特別損益	△520	△2,725	△2,066	△2,205	△659
税引前当期利益	7,350	4,680	6,087	△2,669	△1,407
法人税・住民税および事業税	350	318	324	△31	△6
法人税等調整額	1,000	3,889	1,575	2,889	2,314
当期剰余金	6,000	471	4,187	△5,528	△3,715
当期首繰越剰余金	2,300	2,335	2,272	35	62
積立金取崩額	800	2,686	1,946	1,886	740
当期未処分剰余金	9,100	5,493	8,406	△3,606	△2,912

「インタビュー」みかんに人生を捧ぐ 清原優太さん (株)みかん代表取締役

みかんの生産・流通・消費の懸け橋に



日本人の食卓に欠かせない「みかん」。みかんに魅せられ、「株式会社みかん」を起業し、「日本みかんサミット」も主催する清原優太さんに、会社のこと、みかんサミットのこと、みかんへの思いなどをお聞きしました。

【広報・調査部】

みかんは、生まれつき好きです。常にみかんが家にある環境にありました。実は僕、生まれて何カ月かぐらいでインドネシアに行きまして、そのインドネシアで、初めてしゃべったインドネシア語がオレンジジュースだったみたいです。それだけ柑橘は生まれたときから好きで、その中でもみかんが好きでした。

みかん大好き人間が サークル、会社設立

みかんが好きだったので、大学に入ったら、みかんサークルをつくりたいなと思い、ネットで呼び掛けました。みかんに関して、いろいろ調べていたら、

どうやら日本のみかんの消費量が7割減という事実に気づいて、そこで日本のみかんの消費量を増やすというのを理念に大々的に掲げたら、さらに人が集まって消費量を増やすサークルになっていました。

日本のみかんの消費量を増やすんだというときに、話題を巻き起こす活動であったり、メンバー自身が楽しみながら学ぶ、それを発信する活動であったり、それで全ての産地を応援するということ。例えば、佐賀県の太良町というところと連携して、太良町のみかんのシンボルマークのコンペをやったりとか、あとは学園祭で蛇口からみかん

ジュースが出る装置を置いたりとか、JTBさんと連携して小田原でみかん列車を走らせたリ、そういう企画を動かす活動ですね。格好よくいうと、みかんの広報企画みたいな活動です。それ以外にも、夏合宿とかで産地の現場に行つて摘花のお手伝いをしたり、それ以外にも個々人がお手伝いに行ったりしました。

みかんにずっと関わってきたいという思いと、自分が今後、みかんをより極めていく団体というか、法人格として会社を持つておこうみたいな形で2016年5月に「株式会社みかん」を立ち上げました。

産地、流通、消費者など 多くの人を結ぶサミット

株式会社みかんでやっていたのは、日本みかんサミットです。全国のみかん産地を回るうちに、産地は当然ライバル関係があつてしかるべきものだと思うのですけれども、これだけ消費が減っているし、生産面も高齢化とか、人手不足とかある中で、もつと連携協働できることがあつてほしいかと思ひました。農家さんは忙しいから、なかなか出掛けていけない、そうした産地のつなぎ役というのが必要なのではないかと思ひ、2016年9月に鹿児島島の長島町で第1回日本みかんサミットを開きました。

1回目は産地をつなぐんだぐらいに思っていたのですけれども、2回目(17年9月、和歌山県湯浅町)になって、よくよく考えてみると結構研究者もいますし、市場の人もあるし、小売店、果物専門店もあるし、消費者もいるし、そういう産業としての構造があつて、それが一堂に会する場として2回目をやりました。今年5月に3回目を愛媛県宇和島で開く予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大で、8月末に延期しオンラインで行います。

今、「サードウェーブ(第3の波)みかん」みたいな概念を提唱しています。柑橘はすごく多様だと思つていて、品種があり、産地があり、味があるのに、それが全然伝わっていないというのはすごくもったいないなと。ファーストウェーブが柑橘栽培の産地化(JAの産地化)で国内の代表的果物の地位を確立した時代、次は光センサーが導入されて、糖度という軸で安定した供給が可能になった時代。次は糖度だけじゃなくて甘い、酸っぱいもいろいろあるだろうし、品種だとか、自分の推し品種だとか、推し農家さんとか、推し産地だとか、そういう多様な軸というのが伝わる時代が来てもいいのではないのかなというのを、「サードウェーブみかん」としてしています。

産地横断ブランドで リレー出荷も構想に

柑橘の多様性を伝えたい、直近で何をやっていくか。「香酸柑橘サミット」があるなと思つています。香酸柑橘は、あまり表に出ていないけど、味が違うし、例えば山口の「長門ゆずぎち」とか、宮崎の「へべす」だとか、あと有名なのは「すだち」とか「かぼす」とかです。それが今、これだけレモンブームが来ている中、地ビールとかが来ている中で、ちよつと火が付けばいいくんじやないかなと思つています。完全に消費者向けなのですけれど、これに特化したサミットを、今年10月上旬に計画しています。



産地共通でブランド、全国のいろんな産地から出荷いただいて、それを一つのブランドにまとめ上げるみたいなきことをできるのではないかと思つています。柑橘に限らずですが例えば、香酸柑橘も、「かぼす」「すだち」の違いがあまり分かつていない人が多いと思つていて。というのは、「すだち」は徳島がやって、「かぼす」は大分でやるみたいな、横軸がなかったというときに、産地リレーをしたら旬の物が出せますし、JAさんと一緒に統一的な基準を作つていって、全国の産地からリレーで出していただくみたいなのは、あり得そうだなと思つています。その方が、マーケティング、プロモーション面でも強いし、いろんな物を、旬の物をしっかり出せるというのは面白いのではないかなと思つて、その方向にちよつとひねりたいなと思つています。

8月23～28日 「日本みかんサミットオンライン」 開催

日本みかんサミットオンライン実行委員会は8月23～28日の6日間、「コロナ時代の柑橘産地を考える」をテーマにオンラインでパネルディスカッションを行います。

オンラインサミットは午後7時から約1時間30分。日替わりで①消費②産地③経営④生産者⑤流通販売⑥人材確保——のテーマで、生産者・JA・団体、流通・加工・販売など業界、研究者、消費者などがパネルディスカッションを行います。

視聴、参加申し込み、
問い合わせはこちら



キャンプ向け「Camp Rice for Solo Camper」を発売

便利で、おいしく、SNS映え

岡山パールライス(株)

岡山県本部の子会社「岡山パールライス株式会社」は7月15日、キャンプ向けの新商品「Camp Rice for Solo Camper(キャンプライス)」の販売を始めました。【岡山県本部】

「キャンプライス」は、近年のキャンプのトレンドに合わせて企画した商品です。キャンプ人口は増加傾向にあり、1990年代に次ぐキャンプブームが起きていると言っても過言ではありません。この第2次キャンプブームの特徴は、「ソロキャンパーの増加」と「SNS映え」で、キャンプでの炊飯も昔ながらの「飯盒」から、コンパクトでおしゃれな「クッカー」へと変わりつつあります。

そこで、クッカーと相性が良く、SNS映えするキャンプ用商品として開発しました。内容量は150gで、研ぎ汁で河川を汚すこ



販売が始まったキャンプライス。包装袋は計量カップになる

とのない無洗米です。また、包装袋は、中のお米を取り出した後、計量カップとして使うことができます。

商品概要

- 1.商品名:「Camp Rice for Solo Camper(キャンプライス)」
- 2.容量:150g(約1合)
- 3.賞味期限:精米日より6カ月
- 4.販売店舗:アウトドア用品店、キャンプ場を中心に鋭意営業推進中
- 5.発売日:令和2年7月15日

おうちでも飛騨牛を楽しもう

直営店「匠味」シェフの料理レシピをYouTubeで配信

岐阜県本部は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で家庭内食の機会が増えている状況を受け、家庭で飛騨牛をおいしく食べてもらおうと、直営レストラン「匠味」のシェフが教える料理レシピをYouTubeで配信しています。【岐阜県本部】

家庭内で調理する機会が増える一方、ステーキはうまく焼くのが難しいという職員の意見をきっかけに企画。「飛騨牛サーロインを余すことなくおいしく食べてほしい」という思いで、「匠味」のシェフ協力のもと3つのレシピ動画を作成しました。

1つ目はステーキの焼き方で、家庭でサーロインステーキをミディアムレアに焼く新しい焼き方を提案しています。2つ目はソースの作り方。ステーキを焼いたフライパンを使い、うま味を生かした和風ソースを紹介しています。最後にピラフの作り方。サーロインステーキの脂部分を使った風味豊かなガーリックピラフを紹介しています。ご覧いただき、ぜひご活用ください。



シェフが動画を通じて家でミディアムレアに焼く新しい焼き方を提案



レシピ動画ページはこちら



飛騨牛サーロインステーキの焼き方

JA全農のインターネットショッピングモール JAタウン ショップ紹介

JAなんすん(静岡県)

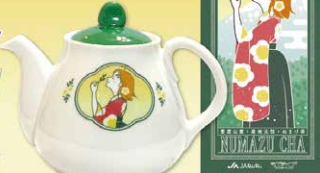
JAなんすんと「ラブライブ!サンシャイン!!」がコラボ。オリジナルデザインの急須とぬまづ茶をセットで発売します。

新茶時期にぬまづ茶とのコラボで大好評となった、「ラブライブ!サンシャイン!!」のオリジナルデザインが今度は急須となって登場。主人公の高海千歌ちゃんがぬまづ茶の茶葉を手にとり、ゆったりとした時間が流れるような洗練された和のデザインとなっています。セットのぬまづ茶は、沼津の豊かな自然に囲まれて育てられた香り高いお茶です。急須で入れた緑茶本来の味わいをお楽しみください。

※9月下旬以降順次発送の予約注文となります。

JAなんすん × ラブライブ! サンシャイン!! 急須&ぬまづ茶セット

ポストカードを1枚につき1枚プレゼント!



セット内容

- 「ラブライブ!サンシャイン!!」オリジナルデザイン急須(容量 500cc)…1個
- ぬまづ茶 100g…1袋

購入特典

「ラブライブ!サンシャイン!!」オリジナルデザイン ポストカード(非売品)…1枚

「ラブライブ!サンシャイン!!」オリジナルデザイン急須&ぬまづ茶セット…5700円

- ▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
- ▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

ご注文はこちらから

